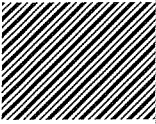


I 調査結果の概要



1 産地上場水揚量、水揚価額及び卸売価格の動き（203漁港）

全国の主要漁港の水産物の上場水揚量（貝類・海藻類を除く魚類・水産動物類の上場水揚量計。）は286万5,556 tで、前年に比べ3%減少した。

水揚価額は5,500億円で、前年に比べ4%増加した。

卸売価格（水揚価額を上場水揚量で除した1kg当たりの価格。）は192円で、前年に比べ7%上昇した。

なお、203漁港の水揚量が平成16年の海面漁業・養殖業生産量（貝類・海藻類を除く。）421万256 tに占める割合は68%であった。

表1 品目別上場水揚量、水揚価額、卸売価格の推移（水揚量上位品目）

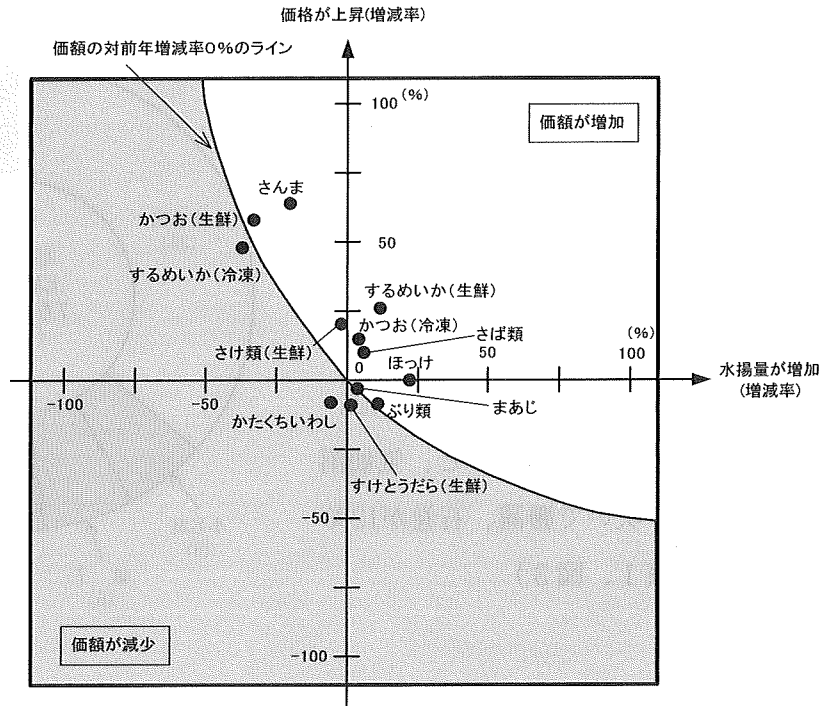
年次	品目	単位												
		計	さば類	かたくちいわし	まあじ	かつお(冷凍)	さんま	すけとうだら(生鮮)	ほっけ	するめいか(生鮮)	さけ類(生鮮)	ぶり類	かつお(生鮮)	するめいか(冷凍)
上場水揚量														
平.	12	3 097 787	273 380	226 793	171 599	193 385	211 826	223 611	138 014	168 097	74 450	74 029	109 188	173 194
	13	3 018 797	357 376	185 351	154 084	181 360	268 169	147 256	123 122	147 905	100 321	74 567	80 864	129 113
	14	2 732 536	277 540	267 119	158 860	213 404	203 665	169 455	114 040	149 407	104 598	64 019	67 770	82 906
	15	2 948 581	310 144	346 744	202 727	199 774	258 626	162 514	122 779	119 284	127 157	67 176	106 609	79 498
	16	2 865 556	328 161	325 852	209 591	207 927	205 260	164 384	149 884	133 715	124 843	74 396	71 532	50 775
対前年比(%)	16/15	97	106	94	103	104	79	101	122	112	98	111	67	64
水揚価額														
平.	12	629 085	29 540	8 552	34 064	21 037	33 170	17 129	4 622	26 066	30 188	35 922	19 398	23 393
	13	607 296	32 546	9 355	31 977	22 410	28 132	12 604	5 146	22 022	26 880	38 253	24 448	18 628
	14	596 840	29 398	11 009	32 567	27 160	32 148	14 362	4 432	29 340	27 147	35 985	23 128	17 178
	15	529 937	24 433	8 837	29 945	20 641	17 227	11 842	3 504	24 339	24 166	35 626	23 600	15 934
	16	550 004	28 638	7 617	30 177	24 786	22 619	10 877	4 276	34 389	28 602	35 871	25 030	14 986
対前年比(%)	16/15	104	117	86	101	120	131	92	122	141	118	101	106	94
卸売価格														
平.	12	203	108	38	199	109	157	77	33	155	408	485	178	135
	13	201	91	50	208	124	105	86	42	149	268	513	302	144
	14	218	106	41	205	127	158	85	39	196	260	562	341	207
	15	180	79	25	148	103	67	73	29	204	190	530	221	200
	16	192	87	23	144	119	110	66	29	257	229	482	350	295
対前年比(%)	16/15	107	110	92	97	116	164	90	100	126	121	91	158	148

注：1 平成12年は205漁港、13年以降は203漁港の結果である。

2 「さけ類(生鮮)」は、冷凍品を含む。

3 「するめいか」には、「まついか類」を含む。

図1 上場水揚量上位品目別水揚価額の増減（対前年比較）



(1) 品目別の主な動向

ア さんま

上場水揚量は20万5,260 tで、前年に比べ21%減少した。（表1）

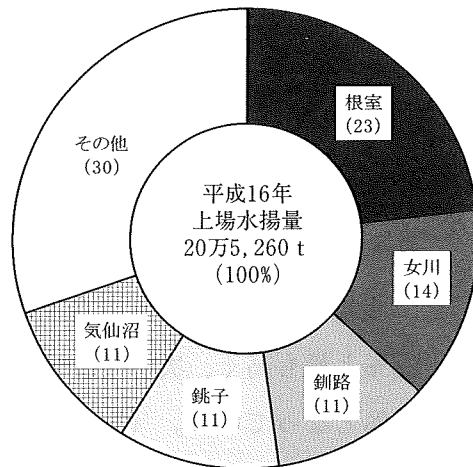
これは、根室等では増加したものの、女川を始め、ほとんどの漁港で減少したためである。

水揚価額は226億円で、前年に比べ31%増加した。

1 kg当たり卸売価格は110円で、上場水揚量の減少等により前年に比べ64%上昇した。

上場水揚量の漁港別割合をみると、根室が23%と最も高く、次いで女川が14%、釧路、銚子及び気仙沼が11%となっている。（表1、図2）

図2 さんまの上場水揚量の漁港別割合



イ かつお（生鮮）

上場水揚量は7万1,532 tで、前年に比べ33%減少した。（表1）

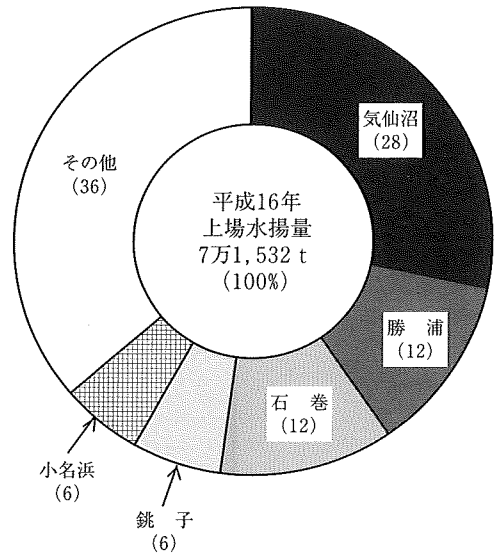
これは、銚子等で増加したものの、気仙沼、勝浦、石巻等で減少したためである。

水揚価額は250億円で、前年に比べ6%増加した。

1 kg当たり卸売価格は350円で、上場水揚量の減少等により前年に比べ58%上昇した。

上場水揚量の漁港別割合をみると、気仙沼が28%と最も高く、次いで勝浦、石巻が12%となっている。（表1、図3）

図3 かつお（生鮮）の上場水揚量の漁港別割合



ウ かたくちいわし

上場水揚量は32万5,852 tで、前年に比べ6%減少した。（表1）

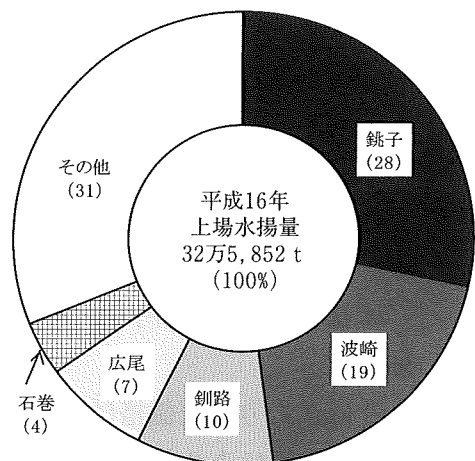
これは、波崎、釧路、広尾等で増加したものの、銚子、石巻等で減少したためである。

水揚価額は76億円で、前年に比べ14%減少した。

1 kg当たり卸売価格は23円で、前年に比べ8%低下した。

上場水揚量の漁港別割合をみると、銚子が28%と最も高く、次いで波崎が19%、釧路が10%となっている。（表1、図4）

図4 かたくちいわしの上場水揚量の漁港別割合



エ ほっけ

上場水揚量は14万9,884 tで、前年に比べ22%増加した。(表1)

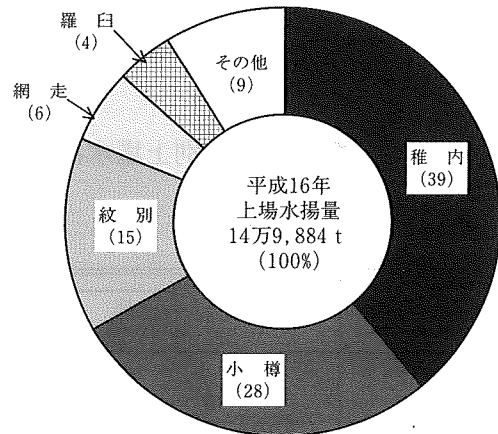
これは、稚内を始め、ほとんどの漁港で増加したためである。

水揚価額は43億円で、前年に比べ22%増加した。

1 kg当たり卸売価格は29円で、前年並みであった。

上場水揚量の漁港別割合をみると、稚内が39%と最も高く、次いで小樽が28%、紋別が15%となっている。(表1、図5)

図5 ほっけの上場水揚量の漁港別割合



オ さば類

上場水揚量は32万8,161 tで、前年に比べ6%増加した。(表1)

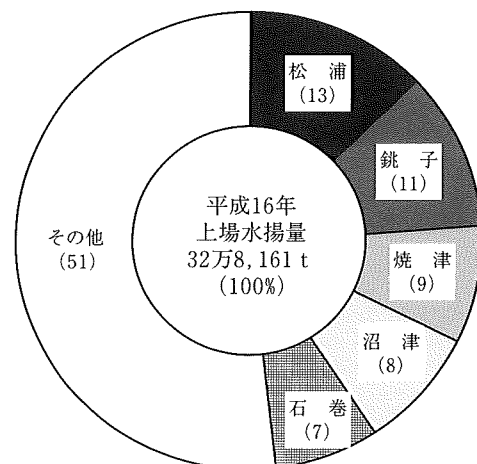
これは、松浦を始め、ほとんどの漁港で増加したためである。

水揚価額は286億円で、前年に比べ17%増加した。

1 kg当たり卸売価格は87円で、前年に比べ10%上昇した。

上場水揚量の漁港別割合をみると、松浦が13%と最も高く、次いで銚子が11%、焼津が9%となっている。(表1、図6)

図6 さば類の上場水揚量の漁港別割合



(2) 主要漁港の動向

漁港別の上場水揚量をみると、焼津が22万5,629 t（構成割合8%）で最も多く、次いで銚子が20万928 t（同7%）、釧路が15万7,375 t（同5%）、八戸が14万1,914 t（同5%）、石巻が11万7,708 t（同4%）の順となっている。（表2）

なお、上位10漁港の上場水揚量は、全体の44%を占めている。（図7）

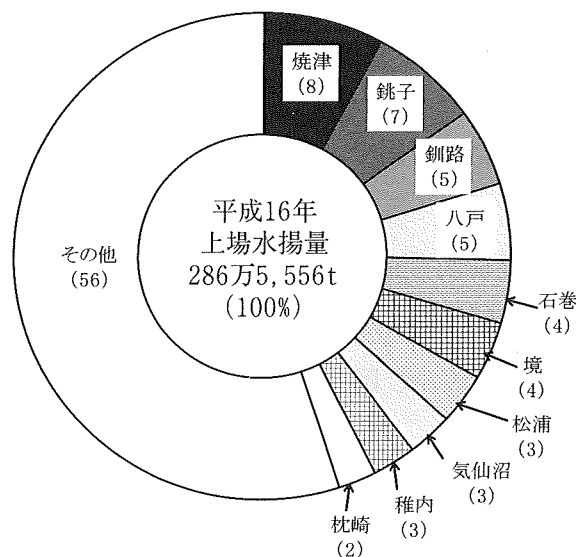
水揚量上位5漁港の動向は以下の通りである。（表2、図8）

表2 漁港別上場水揚量・水揚価額の推移（水揚量上位5漁港）

漁港 年次	計	単位				
		焼津 (静岡)	銚子 (千葉)	釧路 (北海道)	八戸 (青森)	石巻 (宮城)
上場水揚量						
平.12	3 097 787	248 390	200 648	181 175	240 173	129 186
13	3 018 797	216 228	237 127	126 474	213 644	162 552
14	2 732 536	248 690	187 425	152 439	160 676	108 306
15	2 948 581	238 666	219 612	161 602	147 675	128 603
16	2 865 556	225 629	200 928	157 375	141 914	117 708
対前年比						
16/15	97	95	91	97	96	92
水揚価額						
平.12	629 085	44 412	22 436	22 538	33 412	16 014
13	607 296	47 777	25 144	17 817	29 007	16 350
14	596 840	47 873	20 030	19 389	27 946	17 854
15	529 937	42 440	17 829	14 761	24 495	15 261
16	550 004	37 743	20 396	15 246	28 239	17 800
対前年比						
16/15	104	89	114	103	115	117

注：漁港名の（ ）書きは、所在する都道府県名である。

図7 上場水揚量の主要漁港別構成割合



ア 焼津

上場水揚量は22万5,629 tで、前年に比べ5%減少した。

これは、さば類等は増加したものの、かつお（冷凍）、びんなが（冷凍）等が減少したためである。

水揚価額は377億円で、前年に比べ11%減少した。

イ 銚子

上場水揚量は20万928 tで、前年に比べ9%減少した。

これは、さば類等は増加したものの、かたくちいわし、さんま等が減少したためである。

水揚価額は204億円で、前年に比べ14%増加した。

ウ 釧路

上場水揚量は15万7,375 tで、前年に比べ3%減少した。

これは、かたくちいわし等は増加したものの、すけとうだら（生鮮）、さんま等が減少したためである。

水揚価額は152億円で、前年に比べ3%増加した。

エ 八戸

上場水揚量は14万1,914 tで、前年に比べ4%減少した。

これは、あかいか（冷凍）、するめいか（生鮮）等は増加したものの、するめいか（冷凍）等が減少したためである。

水揚価額は282億円で、前年に比べ15%増加した。

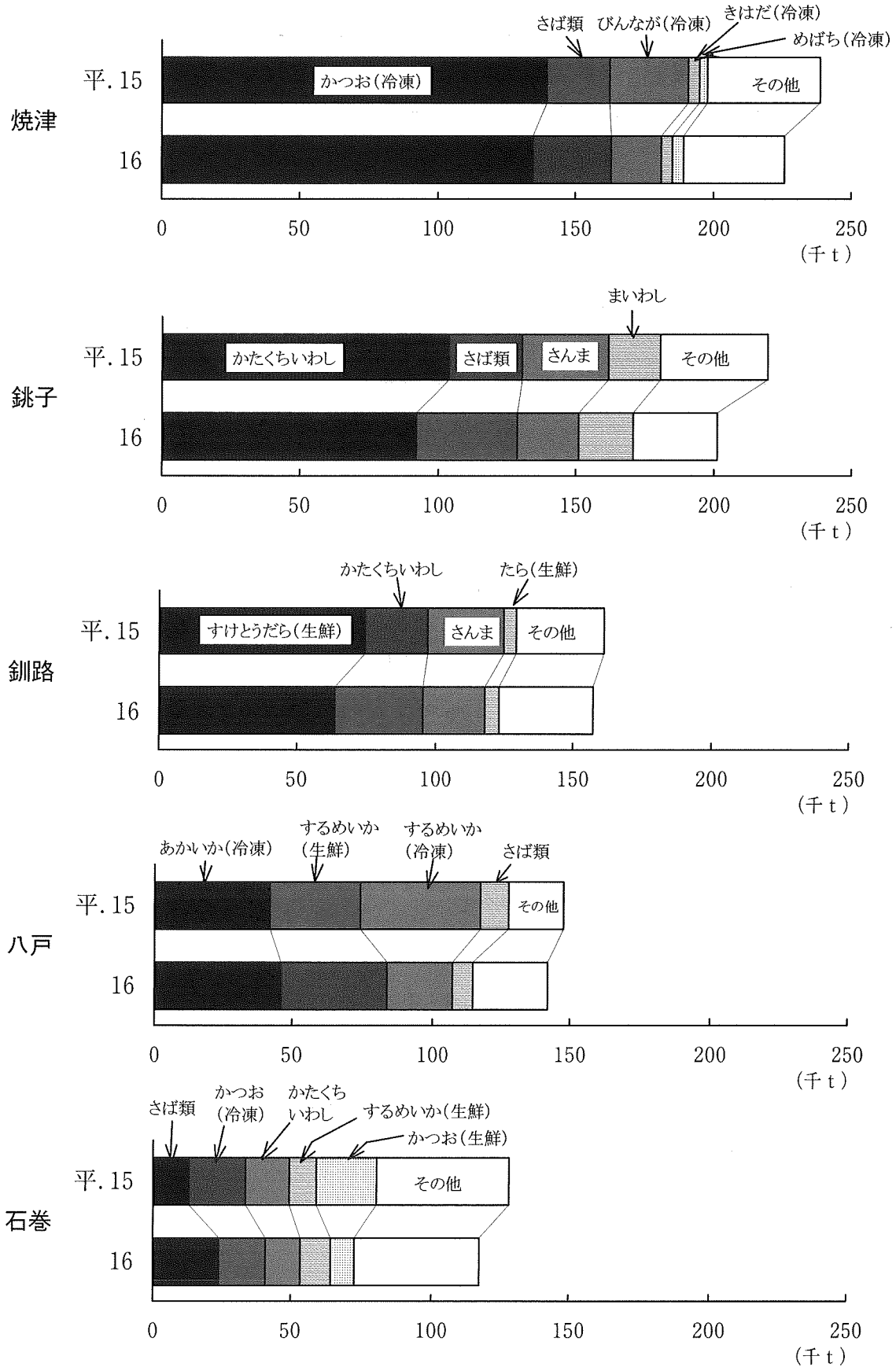
オ 石巻

上場水揚量は11万7,708 tで、前年に比べ8%減少した。

これは、さば類等は増加したものの、かつお（生鮮）、かたくちいわし等が減少したためである。

水揚価額は178億円で、前年に比べ17%増加した。

図8 主要漁港の品目別水揚量の動向（平成15・16年）



2 水産物流通形態別出荷量の動き（32漁港）

(1) 用途別出荷量

用途別出荷量割合（合計）は食用向けが72.8%、非食用向けが27.2%となった。

食用向けのうち、生鮮食用向けは29.4%、食用加工向けは43.4%でほぼ前年並みとなった。

また、非食用向けのうち、魚油・飼肥料向けは3.8%で、ほぼ前年並みとなった。養殖用又は漁業用餌料向けは23.4%で、まいわし等で増加したものの、かたくちいわし等で減少したため、前年に比べ1.7ポイント減少した。

表3 用途別出荷量割合

	計 (出荷量)	食用向け		非食用向け		対前年差 (ポイント)			
		生鮮食用 向け	食用加工 向け	魚油・飼肥 料向け	養殖用又は 漁業用餌料 向け	食用向け		非食用向け	
						生鮮食用 向け	食用加工 向け	魚油・飼肥 料向け	養殖用又は 漁業用餌料 向け
合計	100.0	29.4	43.4	3.8	23.4	0.9	0.4	0.4	△ 1.7
生鮮品計	100.0	30.7	35.6	4.8	29.0	1.6	0.3	0.5	△ 2.3
冷凍品計	100.0	24.2	75.7	-	0.2	△ 1.7	1.6	-	0.2

(2) 仕向先別出荷量

生鮮食用向けの仕向先別出荷量割合（合計）は、県内向けが19.7%、県外向けが80.2%となった。

県内向けのうち、県内市場向けは7.7%、市場外向けは12.0%でほぼ前年並みとなった。

また、県外向けのうち、県外市場向けは73.8%で、前年に比べ1.5ポイント増加し、市場外向けは6.4%で、前年に比べ1.9ポイント減少した。

これは、かつお（冷凍）の県外市場向けが増加し、県外市場外向けが減少したためである。

表4 仕向先別出荷量割合

	計 (生鮮食 用向け 出荷量)	県内向け		県外向け		対前年差 (ポイント)			
		県内市場	市場外	県外市場	市場外	県内向け		県外向け	
						県内市場	市場外	県外市場	市場外
合計	100.0	7.7	12.0	73.8	6.4	△ 0.6	0.9	1.5	△ 1.9
生鮮品計	100.0	8.7	10.6	75.8	5.0	△ 0.7	1.0	0.3	△ 0.5
冷凍品計	100.0	3.4	19.5	63.1	14.0	0.2	1.3	5.5	△ 7.0

3 消費地卸売数量、卸売価額、卸売価格等の動き

(1) 消費地中央卸売市場における動き (10都市)

卸売数量は199万4,600 tで、前年に比べ3万9,816 t (2%) 減少した。

卸売価額は1兆5,159億円で、前年に比べ361億円 (2%) 減少した。

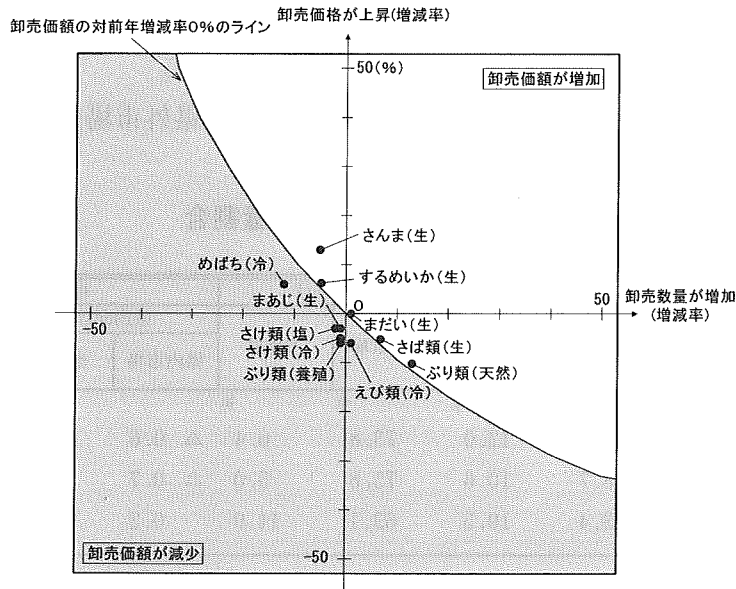
この結果、卸売価格(卸売価額を卸売数量で除した1 kg当たりの平均価格。以下「価格」という。)は760円で、前年並みとなった。

表5 品目別消費地卸売数量、卸売価額及び卸売価格の推移(卸売数量上位品目)

年次	品目	計	さけ類		ぶり類		えび類 (冷凍)	まあじ (生鮮)	さば類 (生鮮)	めばち (冷凍)	するめいか (生鮮)	まだい (生鮮)	さんま (生鮮)
			(冷凍)	(塩蔵)	(天然)	(養殖)							
卸売数量	平.12	2 183 355	50 904	54 745	32 669	46 937	58 490	57 465	50 510	48 754	54 021	41 008	30 326
	13	2 141 583	64 819	52 449	29 463	56 496	56 706	49 537	54 616	50 639	57 453	33 980	39 339
	14	2 089 773	73 146	53 289	28 383	57 408	54 940	47 918	53 515	54 780	52 060	36 321	37 025
	15	2 034 416	67 072	47 743	27 359	54 670	53 017	51 854	46 798	51 604	46 760	43 082	43 768
	16	1 994 600	66 270	46 709	31 140	54 065	53 499	51 470	50 295	45 454	44 643	43 699	41 730
対前年比(%)	16/15	98	99	98	114	99	101	99	107	88	95	101	95
卸売価額	平.12	1 787 780	29 685	37 716	19 689	53 552	91 733	24 244	19 612	50 961	19 315	38 884	17 304
	13	1 708 215	31 268	34 667	17 053	51 257	82 033	22 893	17 685	47 415	17 663	38 680	17 665
	14	1 663 827	33 010	33 791	17 993	48 944	74 259	22 265	17 922	46 335	17 817	36 009	16 961
	15	1 551 977	34 463	32 035	17 533	49 605	67 023	21 419	16 065	44 362	17 092	33 363	14 237
	16	1 515 893	32 495	30 548	17 886	45 896	63 864	20 580	16 425	41 427	17 377	33 905	15 330
対前年比(%)	16/15	98	94	95	102	93	95	96	102	93	102	102	108
卸売価格	平.12	819	583	689	603	1 141	1 568	422	388	1 045	358	948	571
	13	798	482	661	579	907	1 447	462	324	936	307	1 138	449
	14	796	451	634	634	853	1 352	465	335	846	342	991	458
	15	763	514	671	641	907	1 264	413	343	860	366	774	325
	16	760	490	654	574	849	1 194	400	327	911	389	776	367
対前年比(%)	16/15	100	95	97	90	94	94	97	95	106	106	100	113

単位 { 卸売数量: t
卸売価額: 百万円
卸売価格: 円/kg

図9 品目別卸売価額の増減(卸売数量上位品目)(対前年比較)



(2) 主要品目別にみた卸売価格、冷凍・冷蔵工場年末在庫量等の動き

10都市中央卸売市場において、卸売数量上位品目のうち、価格の変動が大きい品目をみると以下のとおりである。

ア さんま（生鮮品）

生鮮品の卸売価格は367円で、前年に比べ42円（13%）上昇した。

これは、水揚量が減少したためである。

冷凍・冷蔵工場の年末在庫量は5万8,319 tで、前年に比べ1万7,017 t（23%）

減少した。

図10 さんまの卸売数量及び卸売価格の推移

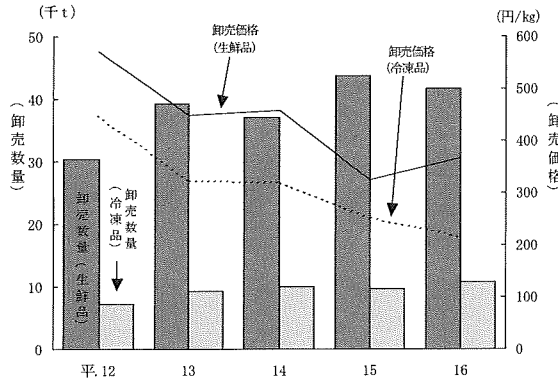
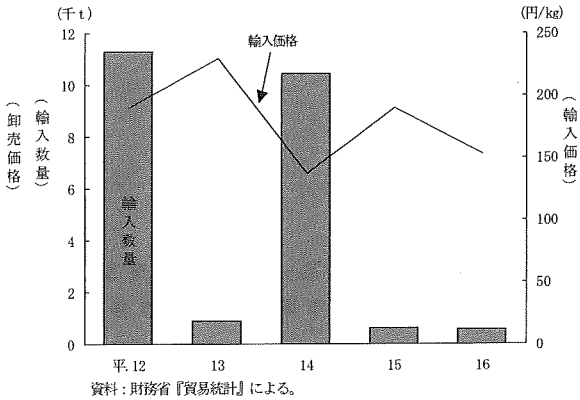
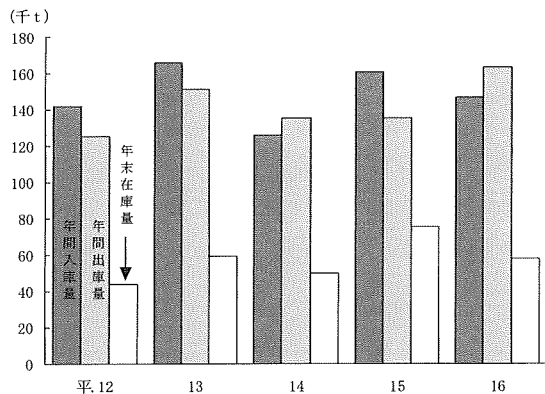


図11 さんま（生鮮品・冷蔵品・冷凍品）の輸入数量及び輸入価格の推移



資料：財務省『貿易統計』による。

図12 さんま（冷凍品）の年間入庫量、年間出庫量及び年末在庫量の推移



イ めばち（冷凍品）

冷凍品の卸売価格は911円で、前年に比べ51円（6%）上昇した。

これは、輸入量が減少したためである。

冷凍・冷蔵工場の年末在庫量は1万9,358 tで、前年に比べ9,244 t（91%）増加した。

図13 めばちの卸売数量及び卸売価格の推移

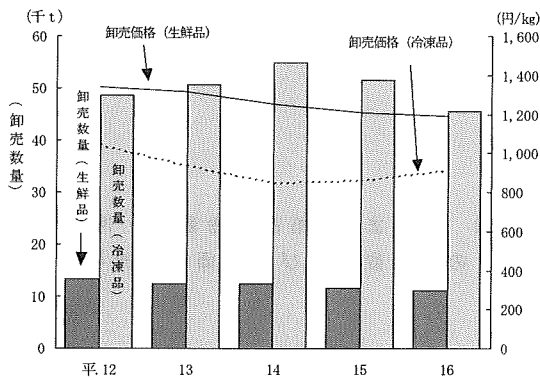


図14 めばち（生鮮品・冷蔵品・冷凍品）の輸入数量及び輸入価格の推移

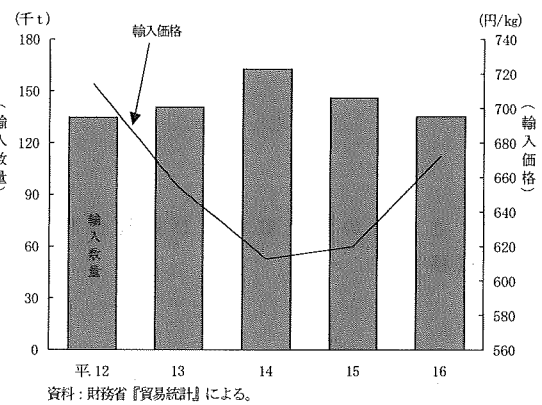
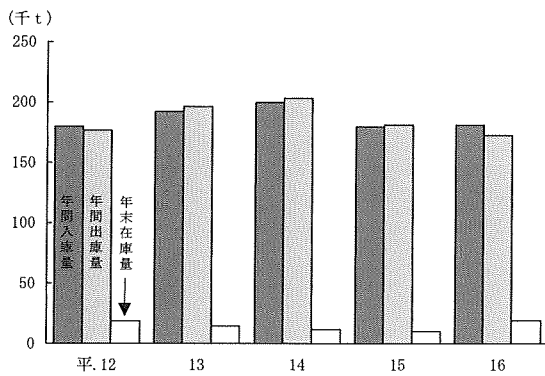


図15 めばち（冷凍品）の年間入庫量、年間出庫量及び年末在庫量の推移



ウ するめいか（生鮮品）

生鮮品の卸売価格は389円で、前年に比べ23円（6%）上昇した。

これは、産地価格が上昇したためである。

冷凍・冷蔵工場の年末在庫量は5万3,170 tで、前年に比べ1万1,279 t（18%）

減少した。

図16 するめいかの卸売数量及び卸売価格の推移

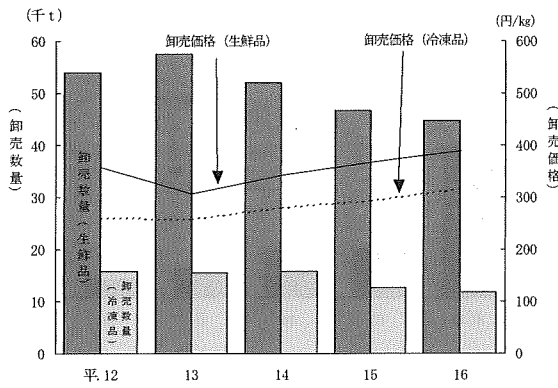


図17 いか類（生鮮品・冷蔵品・冷凍品）の輸入数量及び輸入価格の推移

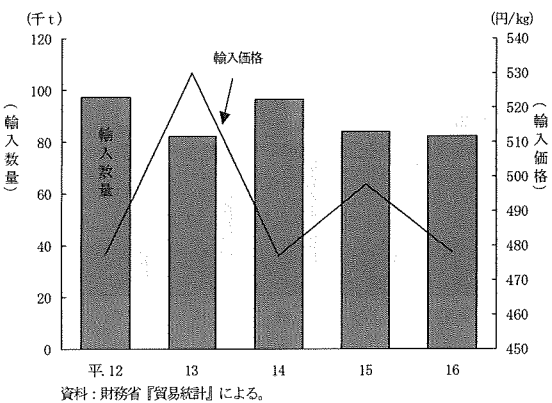
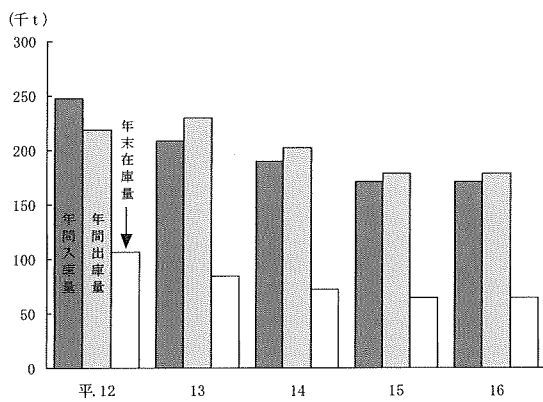


図18 するめいか（冷凍品）の年間入庫量、年間出庫量及び年末在庫量の推移



エ ぶり類（生鮮品）

生鮮品（天然）の卸売価格は574円で、前年に比べ67円（10%）低下した。

生鮮品（養殖）の卸売価格は849円で、前年に比べ58円（6%）低下した。

これは、水揚量が増加したためである。

図19 ぶり類の卸売数量及び卸売価格の推移

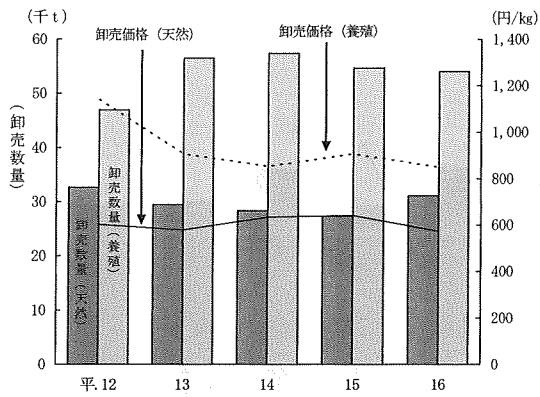
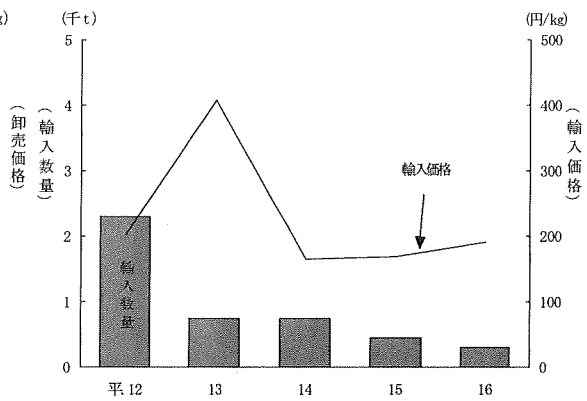


図20 ぶり類（生鮮品・冷蔵品・冷凍品）の輸入数量及び輸入価格の推移



オ えび類（冷凍品）

冷凍品の卸売価格は1,194円で、前年に比べ70円（6%）低下した。

これは、輸入価格が低下したことなどによる。

冷凍・冷蔵工場の年末在庫量は8万5,091 tで、前年に比べ5,131 t（6%）増加した。

図 21 えび類（冷凍品）の卸売数量及び卸売価格の推移

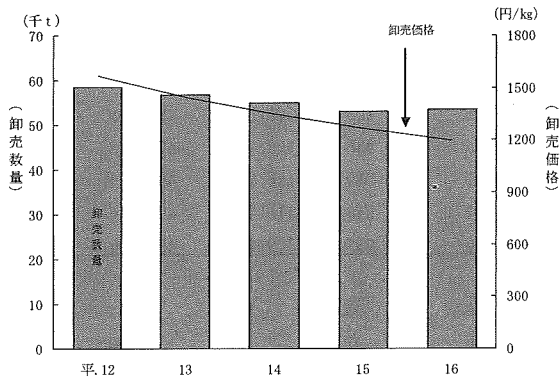


図 22 えび類（生鮮品・冷蔵品・冷凍品）の輸入数量及び輸入価格の推移

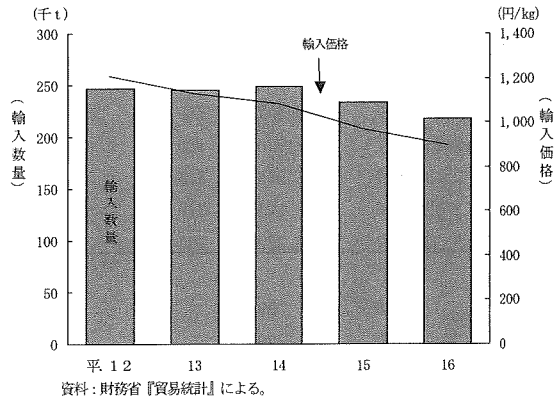
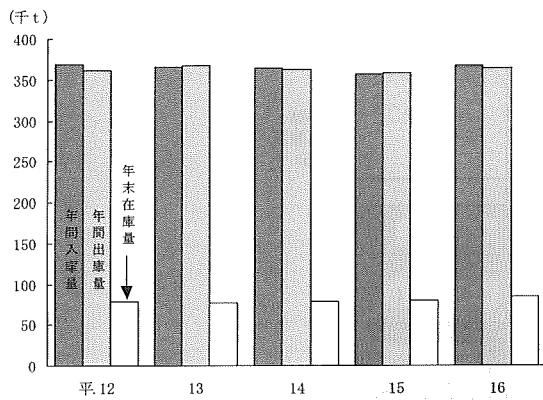


図 23 えび類（冷凍品）の年間入庫量、年間出庫量及び年末在庫量の推移



4 水産加工品生産量の動き

(1) 食用加工品生産量

食用加工品生産量は212万9,597 tで、前年並みであった。

加工種類別にみると、塩蔵品はさけ・ますが増加したこと等により5%増加し、その他の食用加工品も調味加工品が増加したこと等により4%増加した。

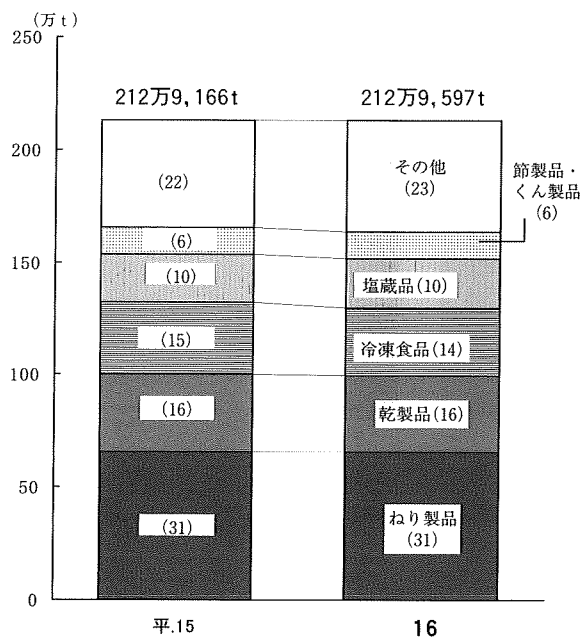
一方、冷凍食品は水産物調理品がかなり減少したことにより5%減少し、乾製品も煮干し品が大幅に減少したことにより4%減少した。

表6 加工種類別生産量の推移

加工種類 年次	食用加工品								生鮮冷凍 ^(注) 水産物
	計	ねり製品	冷凍食品	乾製品	塩蔵品	くん製品	節製品	その他の 食用加工品	
生産量(t)									
平.12	2 264 399	706 592	329 447	360 682	248 475	11 125	125 340	482 738	1 649 115
13	2 253 227	702 920	320 814	357 114	262 995	10 355	122 187	476 842	1 584 281
14	2 135 825	676 565	315 793	341 127	221 817	12 580	116 277	451 666	1 403 763
15	2 129 166	658 293	319 582	346 680	208 947	12 848	110 770	472 046	1 548 220
16	2 129 597	660 322	303 236	332 872	218 396	13 037	109 839	491 895	1 628 978
対前年比(%)									
平.12	98	99	98	96	108	93	102	94	94
13	100	99	97	99	106	93	97	99	96
14	95	96	98	96	84	121	95	95	89
15	100	97	101	102	94	102	95	105	110
16	100	100	95	96	105	101	99	104	105

注：水産物の生鮮品（丸のほか、フィレー等を含む。）を凍結室において凍結したものである。

図24 加工種類別の生産量構成割合



ア ねり製品

ねり製品の生産量は66万322tで、前年並みであった。

品目別にみると、やきちくわは13万9,343t、魚肉ハム・ソーセージは7万1,223tで、前年に比べそれぞれ2%、5%増加したものの、ねり製品の約7割を占めるかまぼこ類は44万9,756tで、前年に比べ1%減少した。

図25 ねり製品の構成割合

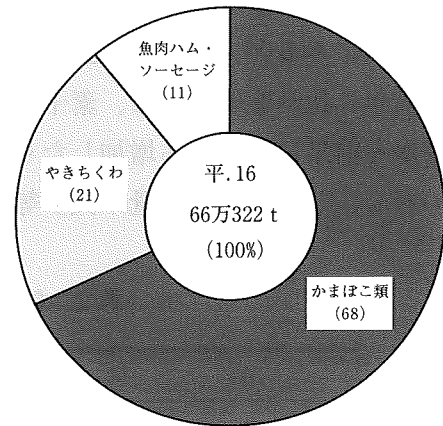


表7 ねり製品の品目別生産量

品目	単位：t		
	平. 16	15	対前年比
ねり製品計	660 322	658 293	100
やきちくわ	139 343	137 238	102
かまぼこ類	449 756	453 374	99
魚肉ハム・ソーセージ	71 223	67 681	105

イ 冷凍食品

冷凍食品の生産量は30万3,236tで、前年に比べ5%減少した。

品目別に見ると、魚介類（切り身、むきえび等の加工品）は16万337tで、前年に比べ1%減少し、水産物調理食品は14万2,899tで、中国、タイ等からの輸入が増加したこと等により、前年に比べ9%減少した。

表8 冷凍食品の品目別生産量

品目	単位：t		
	平. 16	15	対前年比
冷凍食品計	303 236	319 582	95
魚介類	160 337	162 536	99
水産物調理食品	142 899	157 046	91

ウ 乾製品

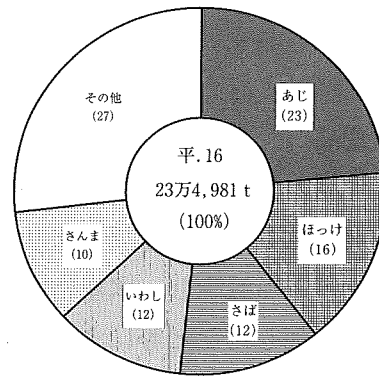
乾製品の生産量は33万2,872 tで、前年に比べ4%減少した。

品目別にみると、塩干品は23万4,981 tで、ほっけが大幅に増加したこと等から前年に比べ2%増加し、素干し品は3万5,031 tで、するめが増加したこと等から前年に比べ4%増加したものの、煮干し品は6万2,860 tで、かたくちいわし、しらすの漁獲量の減少等により前年に比べ23%減少した。

表9 乾製品の品目別生産量

品目	単位：t		
	平. 16	15	対前年比 %
乾製品計	332 872	346 680	96
塩干品	234 981	231 354	102
煮干し品	62 860	81 572	77
うち、いわし	25 560	32 533	79
しらす干し	21 684	29 594	73
素干し品	35 031	33 754	104

図26 塩干品の構成割合



品目別の魚種別構成割合を生産量の大きい順にみると、塩干品はあじ、ほっけ、さば、煮干し品はいわし、しらす干し、いかなご、素干し品はするめ、にしんの順となっている。

図27 煮干し品の構成割合

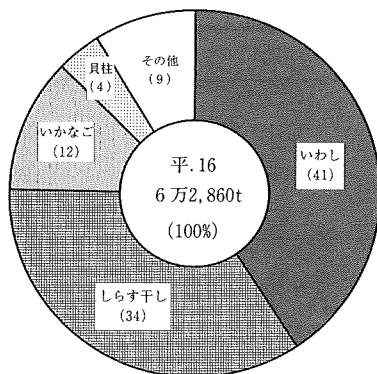


図28 素干し品の構成割合

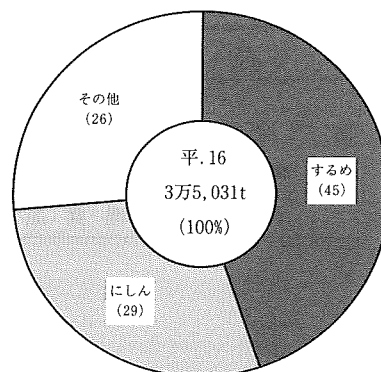
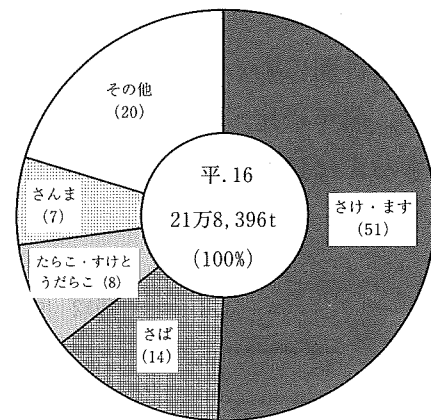


図29 塩蔵品の構成割合



エ 塩蔵品

塩蔵品の生産量は21万8,396tで、前年に比べ5%増加した。

品目別にみると、さばは3万211tで、前年に比べ17%減少したものの、さけ・ますは11万395t、たらこ・すけとうだらこは1万8,183t、さんまは1万5,474tで、前年に比べそれぞれ15%、11%、8%増加した。

表10 塩蔵品の品目別生産量

品目	単位：t		
	平. 16	15	対前年比 %
塩蔵品計	218 396	208 947	105
うち、さけ・ます	110 395	95 971	115
さば	30 211	36 606	83
たらこ・すけとうだらこ	18 183	16 396	111
さんま	15 474	14 267	108

オ くん製品、節製品

くん製品の生産量は1万3,037tで、前年に比べ1%増加した。

節製品の生産量は10万9,839tで、前年に比べ1%減少した。品目別にみると、けずり節は4万2,889tで前年に比べ2%増加したものの、節類は6万6,950tで、前年に比べ3%減少した。

表11 くん製品、節製品の品目別生産量

品目	単位：t		
	平. 16	15	対前年比 %
くん製品	13 037	12 848	101
節製品	109 839	110 770	99
節類	66 950	68 719	97
けずり節	42 889	42 051	102

(2) 生鮮冷凍水産物生産量

生鮮冷凍水産物の生産量は162万8,978 tで、前年に比べ5%増加した。

品目別にみると、さば類は22万3,197t、まあじ・むろあじ類は17万2,970tで、前年に比べそれぞれ7%、25%増加したものの、いわし類は30万9,661tさんまは10万7,359 tで、前年に比べそれぞれ3%、18%減少した。

表12 主な生鮮冷凍水産物生産量

単位：t

品 目	平. 16	15	対前年比 %
生 鮮 冷 凍 水 産 物 計	1 628 978	1 548 220	105
うち、さ ば 類	223 197	207 725	107
まあじ・むろあじ類	172 970	138 098	125
い わ し 類	309 661	320 731	97
さ ん ま	107 359	130 784	82

5 水産物卸売価格指数（平成12年=100）

(1) 産地水産物卸売価格指数

産地水産物卸売価格指数総合は99.2で、前年に比べ5.0%上昇した。

これは、ぶり類、まぐろ（生鮮）等が低下したものの、かつお（生鮮）、するめいか（冷凍）等が上昇したためである。

(2) 消費地水産物卸売価格指数

消費地水産物卸売価格指数総合は92.9で、前年に比べ0.2%低下した。

これは、かつお（生鮮）、めばち（冷凍）等が上昇したものの、えび類（輸入）、ぶり類（養殖）等が低下したためである。

図30 水産物卸売価格指数の推移（平.12=100）

